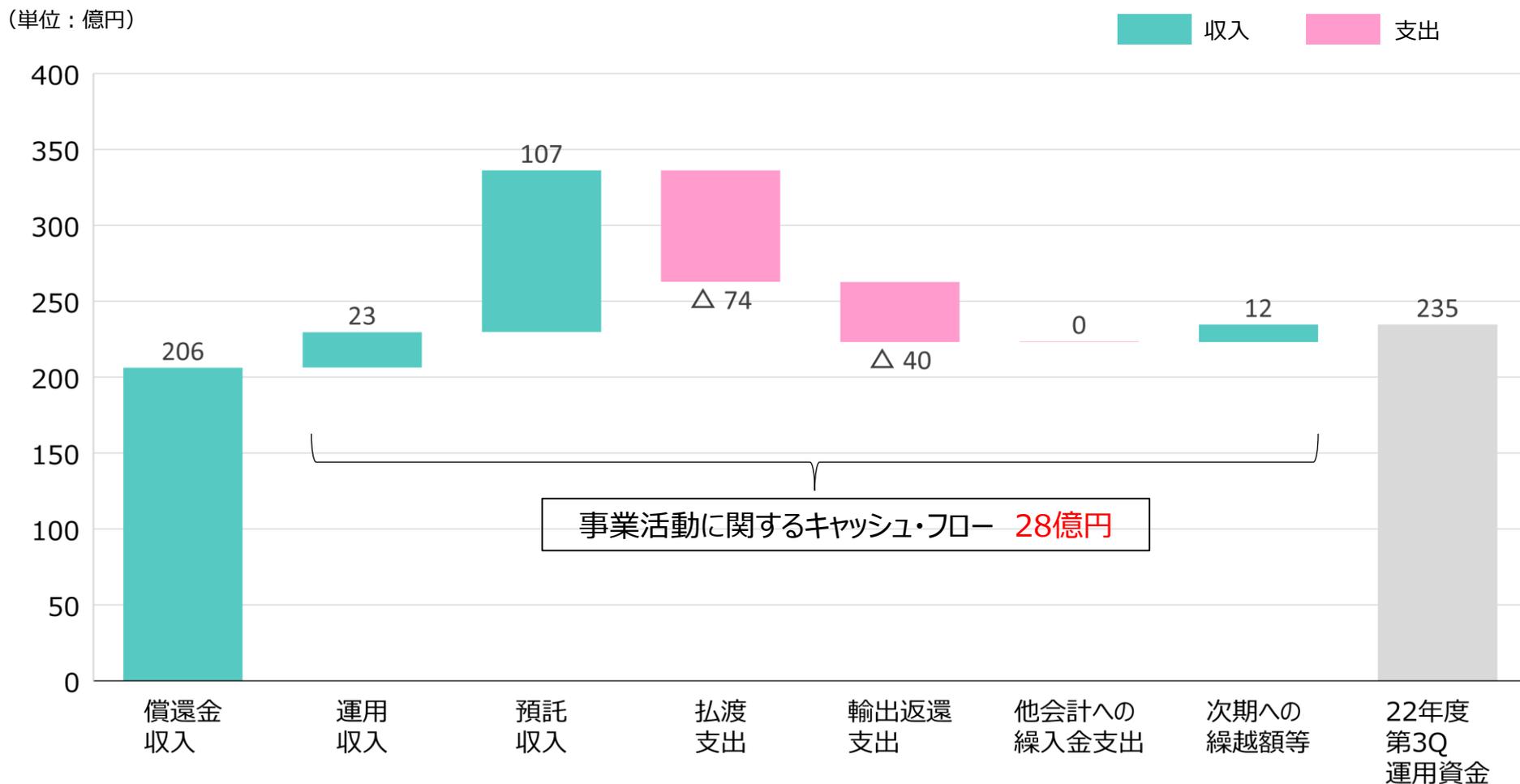


2022年度第3四半期の運用実績 (1) 運用資金

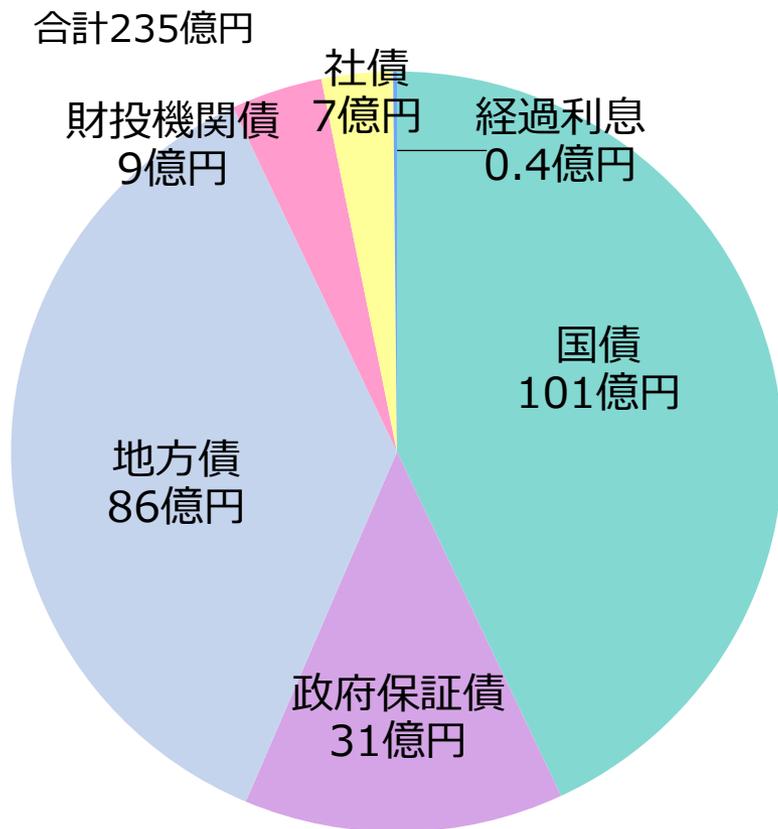
第3Qの運用資金は235億円。事業活動に関するキャッシュ・フローが28億円のプラスとなったため、償還金収入206億円を上回る。



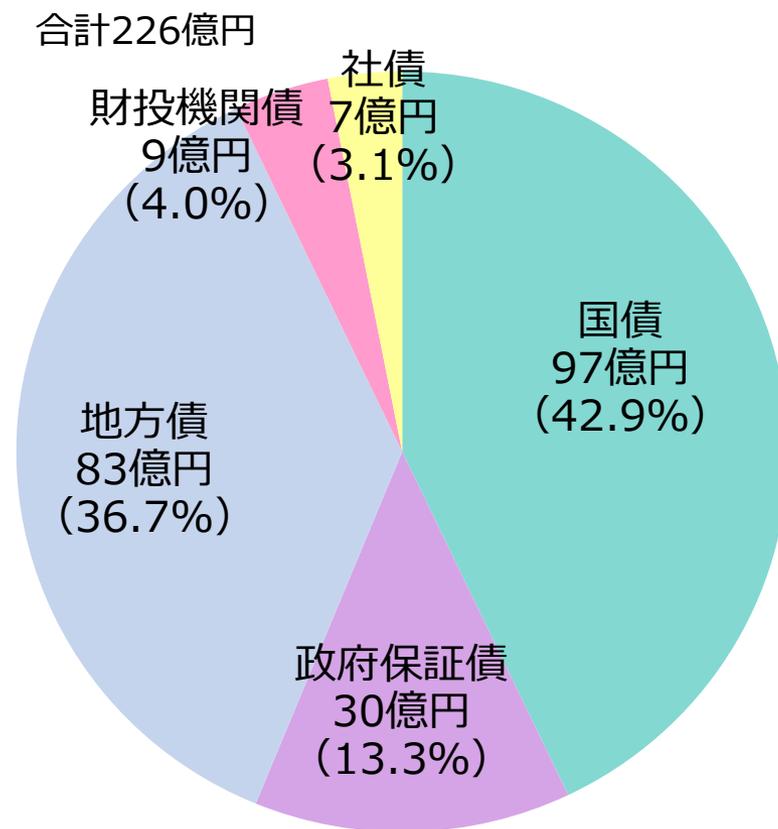
2022年度第3四半期の運用実績 (2) 債券運用の実績

第3Qは年限5年、年限10年、年限13年及び年限15年の債券を額面226億円取得。

簿価ベース



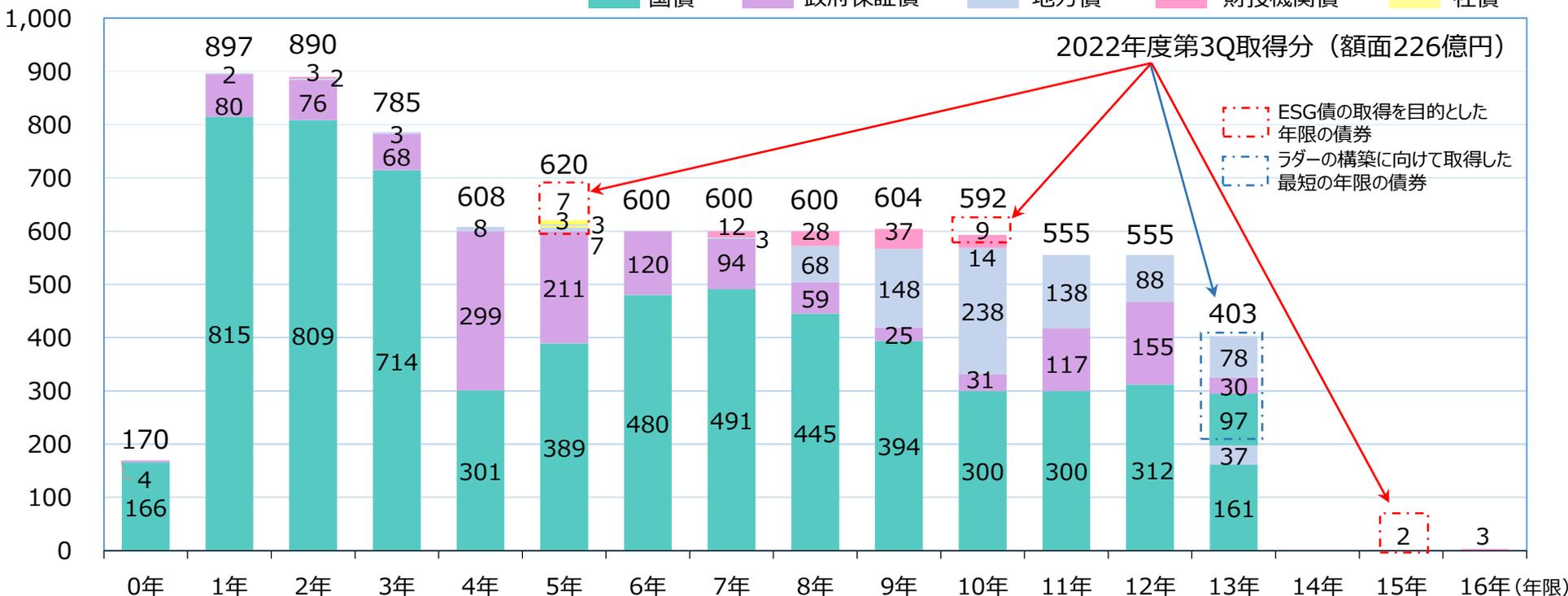
額面ベース



2022年度第3四半期の運用実績 (2) 債券運用の実績

第3Qは年限5年、年限10年、年限13年及び年限15年の債券（額面226億円）を取得した。また、①～④の評価基準に適合したが、⑤の一部の評価基準には不適合となった。

保有債券額（単位：億円）



<評価基準>

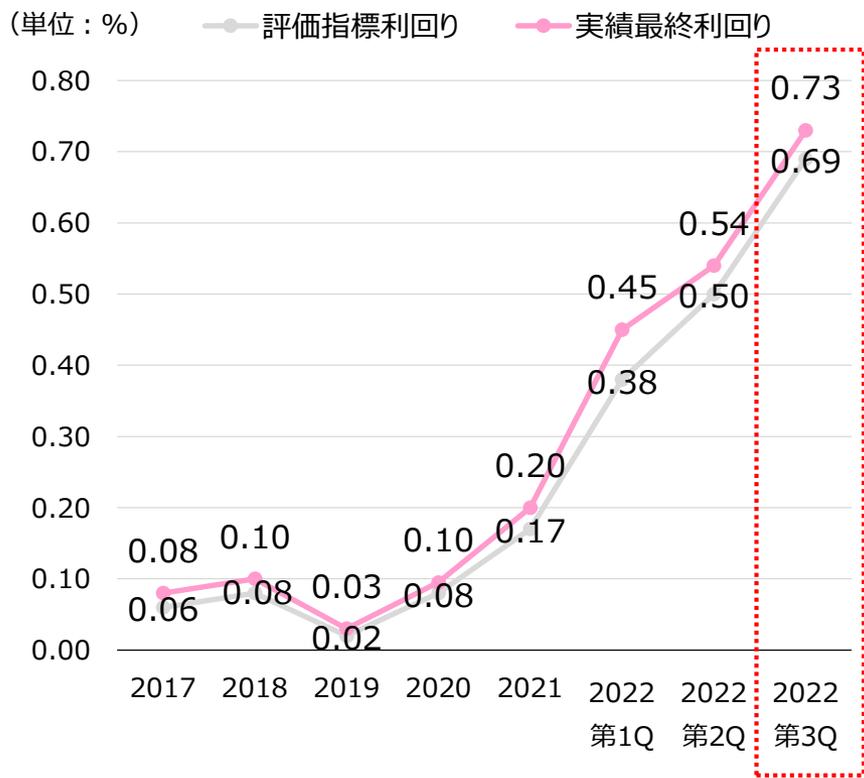
- ① 年限4年以降で額面残高600億円程度まで構築した年限において、許容乖離幅が600億円から±5%の範囲に収まっていること。
- ② 年限4年以降で額面残高600億円程度まで構築した年限において、国債以外の債券の合計額が国債の額を超える場合は、国債の額からの乖離幅が5%以内に収まっていること。
- ③ 財投機関債及び社債の保有上限額（額面ベース）が、ポートフォリオ全体のうち5%を超えていないこと。
- ④ 社債の保有額が財投機関債の保有額を超えていないこと。
- ⑤ 財投機関債の新規取得額面が45億円、社債の新規取得額面が8億円を超えていないこと。

→（実績）社債の新規取得額が10億円となり2億円超過した

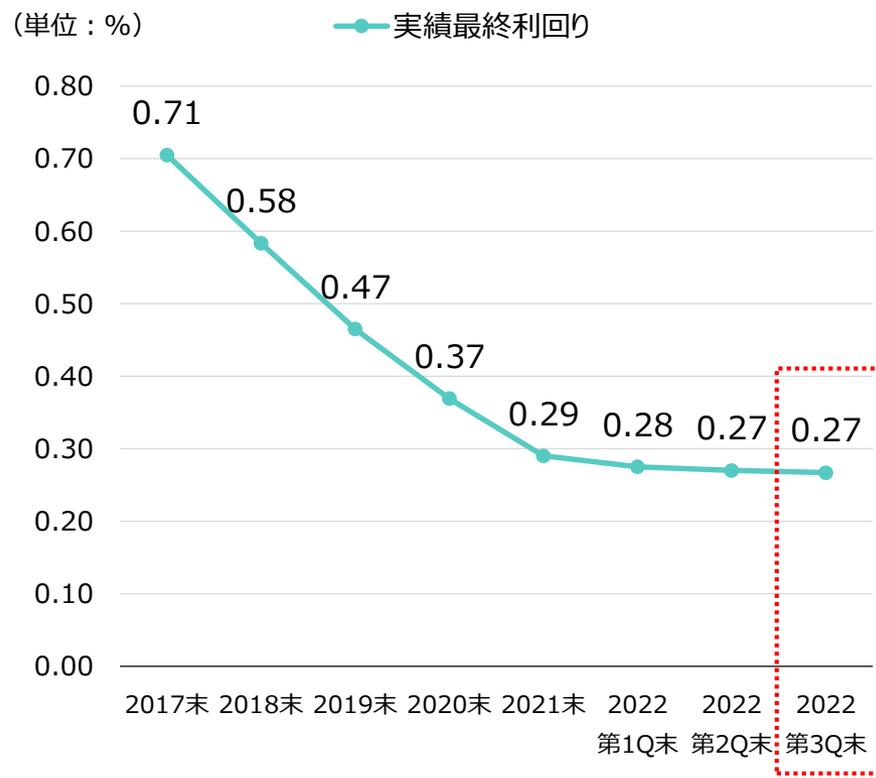
2022年度第3四半期の運用実績 (2) 債券運用の実績

実績最終利回りは0.73%となり、評価指標利回り0.69%を上回る結果となった。また、継続的な低金利環境下にあるため、資産全体の利回りは低下傾向にあり、第3Q末時点では0.27%となった。

新規取得債券の利回り



資産全体の利回り



* 「評価指標利回り」とは債券を取得した年限の日々の市場における利付国債の最終利回り（単利）を、年限ごとの債券の取得比率実績により加重平均したもの。

2022年度第3四半期の運用実績 (3) ESG債の取得

第3QにおいてはESG債を21億円取得（内訳：グリーンボンドを12億円、サステナビリティボンドを9億円）。本財団が投資表明をした債券は下表のとおり。

発行体	神奈川県	大阪府	愛知県
債券種別	地方債	地方債	地方債
ESG種別	グリーンボンド	グリーンボンド	グリーンボンド
銘柄名	神奈川県第3回5年公募公債 (グリーンボンド)	第1回大阪府公募公債(15年) (グリーンボンド)	愛知県令和4年度公募公債(5年)
発行総額	110億円	50億円	100億円
利率	年0.200%	年0.927%	年0.249%
期限	5年(償還年月日:2027年9月17日)	15年(償還年月日:2037年10月30日)	5年(償還年月日:2027年12月20日)
格付	—	—	AA+(R&I)、A+(S&P)
適合する原則等	グリーンボンド原則2018 環境省グリーンボンドガイドライン2020年版	グリーンボンド原則2021 環境省グリーンボンドガイドライン2022年版	グリーンボンド原則2021 環境省グリーンボンドガイドライン2022年版
資金使途(例)	① 河川の緊急対応 ② 遊水地や流路のボトルネック箇所等の整備 ③ 海岸保全施設等の整備 ④ 土砂災害防止施設の整備	① 脱炭素・省エネルギー(地球温暖化対策実行計画に基づく)気候変動への適応事業、電鉄・モノレール延伸事業 ② 魅力と活力ある快適な地域づくり(ヒートアイランド対策推進計画に基づく)公園緑地整備事業	① エネルギー効率 ② 汚染の防止と管理に関する事業 ③ 生物自然資源および土地利用にかかる環境維持型管理 ④ 生物多様性保全に関する事業 ⑤ グリーン輸送 ⑥ グリーンビルディング ⑦ 気候変動への適応

2022年度第3四半期の運用実績 (3) ESG債の取得

発行体	京都市	沖縄振興開発金融公庫
債券種別	地方債	財投機関債
ESG種別	グリーンボンド	サステナビリティボンド
銘柄名	京都市令和4年度グリーンボンド5年公募公債	第31回沖縄振興開発金融公庫債券 (サステナビリティボンド)
発行総額	50億円	100億円
利率	年0.259%	年0.574%
期限	5年(償還年月日:2027年12月20日)	10年(償還年月日:2032年12月20日)
格付	A1 (MDY)	AA+ (R&I)
適合する原則等	グリーンボンド原則2021 環境省グリーンボンドガイドライン2022年版	サステナビリティボンドガイドライン2021 グリーンボンド原則2021 ソーシャルボンド原則2021 環境省グリーンボンドガイドライン2022年版
資金使途(例)	<ul style="list-style-type: none"> ① 市有施設太陽光パネル設置事業 ② 市有施設・設備省エネ改修事業 ③ クリーンセンター改修事業 ④ 土壌汚染対策事業 ⑤ 緑化推進事業 ⑥ 森林整備等事業 ⑦ 次世代自動車・バイオディーゼル車導入事業 ⑧ 河川整備事業 ⑨ 市有施設新築・増築事業 	<p>【ソーシャルカテゴリー】 産業開発資金、中小企業資金、生業資金、生活衛生資金、農林漁業資金、医療資金、住宅資金、出資</p> <p>【グリーンカテゴリー】 沖縄自立型経済発展、環境・エネルギー対策貸付、赤土等流出防止低利、林業基盤整備資金、省エネ賃貸住宅融資、産業開発資金カーボンニュートラル推進投資利率特例制度</p>

2022年度第3四半期の運用実績 (3) ESG債の取得

2021年度第3Q及び2022年度第2Qに取得したESG債の発行体である北九州市と、11月にエンゲージメントを実施した。また、エンゲージメントの内容をまとめたレポートを本財団のWebサイトにて公開した。

< エンゲージメントレポート >

スピーカー

- 自動車リサイクル促進センター 業務執行理事 (CFO) 大久保 英明 様
- 北九州市長 北橋 健治 様

モデレーター

大和証券 (株)
サステナビリティ・ソリューション推進部長 清水 一満

2022年12月23日

6

< 対談概要 >

対談日	2022年11月30日 (水)
対談者	<ul style="list-style-type: none"> ・北九州市長 北橋健治氏 ・本財団業務執行理事 (CFO)大久保英明
取得した ESG債券	<ul style="list-style-type: none"> ①第1回北九州市サステナビリティボンド10年公募公債 発行日：2021年10月 ②第2回北九州市サステナビリティボンド10年公募公債 発行日：2022年9月
対談内容	北九州市が発行した上記債券の資金用途についての確認、及び「SDGs 推進に向けた世界のモデル都市」としての北九州市の取組やESG債の市場発展に向けた意見交換等

2022年度第3四半期の運用実績 (3) ESG債の取得

第3Q末時点における保有債券全体に占めるESG債の割合は2.7%となった。

保有債券全体に占める ESG債の割合 (額面)

ESG債の種別構成 (額面)

